

ほっかいどう N I E 通信

Newspaper in Education 教育に新聞を



第37号

発行 北海道N I E推進協議会

〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6 北海道新聞社内

☎011-210-5802 FAX 011-210-5826

NIE 研究大会

多面的な見方育てる

宮の森中 記事比較し違い学ぶ 公開授業

第13回北海道NIE研究大会は11月21日、「生きる力を育むNIE」を大会主題に札幌市宮の森中で開かれた。道内各地から小中高校の教師ら約50人が参加し、公開授業や実践発表を通じて、多面的なものの見方が出来る子どもの育成を目指し、熱心に研究討議した。

(実践発表は3面)

公開授業では、札幌市三角山小・楢克博教諭と同市宮の森中・古畑理絵教諭が新聞記事を比較し、多様な解釈を学ぶことで、言語活動を充実させる授業を行った。

合単元「筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう」(14時間扱い)の中の8時間目で、「読み手に良く伝わる書き方を考えよう」がテーマ。

参加した米国女性科学者の広島訪問の記事を読み、両記事から戦争の悲惨さや原爆投下の日のことを絶対忘れなければならないことを学んだ。そのあと、どう書けば読み手に良く伝わるか、活発に意見を出し合い、読む順番に



発表を聞いて生徒たちは、同じ事実を報道した記事でもグループによって要約内容や見出しが違うことに驚き、ワークシートには「重点の置き方で見出しも変わる」「新聞によっても見出しや文章の書き方が違う」などと感想を書いた。

同じ記事でも多様な解釈があることを学んだ宮の森中1年2組の公開授業

よって伝わり方が違うことや効果的な伝え方などについて学んだ。

古畑教諭の授業は、1年2組(33人)の国語で、単元「データベースコラム2《学び方2》新聞を知ろう」(3時間扱い)の2時間目。学習課題は「新聞記事の情報を把握

し、多面的なものの見方を考える」。18歳成人に関する世論調査の結果、国民の多くが18歳成人に反対していることを報道した6紙の新聞記事を8グループに分かれて読んで話し合い、内容を要約し、見出しを付けて各代表者が発表した。

追われる師走

師走、教師が走り回っている姿が目につく。最近走っているのが現実だ。▼学年末を控え懇談会、成績処理などに追われている時、集団風邪による学級閉鎖で忙しさが増している▼子供の学力低下が国民的関心事となり新学習指導要領が改訂され、全教諭に配られた冊子をテキストとした講習会に先生方は追われている。改定の方針の一つは「言語力」の育成。「思考力・判断力・表現力」「コミュニケーション能力」育成を重視したNIE活動は改定の追い風を受けている▼第8回旭川セミナーで、枝幸高の喜多教諭が感性や表現力、社会への関心事の向上を目指した新聞投稿を活用した実践発表をした。「書く」訓練を継続すると論述力や読解力が高まり、新聞に掲載された生徒は自尊心が高まり、また周囲の生徒を見る目も変わったという

総合的学力育成と 好奇心向上に期待

小・中学校においては、「生きる力」の育成を改めて強調した新学習指導要領が3月28日に公示されたが、中央教育審議会の答申では思考力・判断力・表現力等を育成するため、次のような学習活動が不可欠であるとして、「重点指導事項例」を示している。

その一つに、情報を分析・評価し、論述するという項目がある。具体的には①自然現象や社会的事象に関する様々な情報や意見を取ったり、これらを用いて分かりやすく表現したりする②自国や他国の歴史・文



化・社会などについて調べ、分析したことを論述する。等の例が示されている。私は過去3回NIEセミナーに助言者として参加し

した授業として、中学校における壁新聞づくりの実践が紹介された。その中では、学校生活での身近な話題として、「携帯電話における

胆振教育局指導主事

藤原 雅宏

ているが、そのたびに、先生方の意欲的な実践に感心している。先日、「第3回苦小牧・日高セミナー」では、NIEにおける新聞を活用

悪質なメール」を取り上げ、全校生徒や保護者のアンケートを実施・分析し、その結果を円グラフに示し、分かりやすく表現していた。また、別の中学校では、

時事問題として取り上げられた「障害者」に視点を当て、記事や社説を複数の新聞から収集し、それらの内容を比較する取り組みが紹介された。生徒は、新聞記事から様々な考え方があることを知るとともに、自分の考えとの相違に気付く、それぞれの考えを確かめるものにする取り組みであった。

これらの取り組みは、総合的に思考力・判断力・表現力等の育成につながるものと、知的好奇心を高め、言語能力を身に付けさせる教育活動として、その成果に大きな期待を寄せているところである。



2地区でNIEセミナー

第3回苫小牧・日高セミナーが11月8日、第8回旭川セミナーが12月6日、それぞれ北海道新聞苫小牧、旭川両支社で開かれ、新聞を「生きた教材」として活用する方法などが発表された。

記事から「秋」集め本に

●苫小牧



苫小牧市美園小・坂井亮一教諭、富川高・金子俊教諭、静内農高・大村勅夫教諭、それにNIEアドバイザーの札幌市屯

田中央中・伊達峰史教諭が実践発表した。

2年を受け持つ坂井教諭は、子どもの発達段階を考え、新聞に触れる機会を設ける「調べ学習」に取り組んだ。「秋を見つけることを課題にし、記事から秋を探して切り抜き、写真と押し花で本を作った。情報活用能力のアップに役立った」と報告した。写真Ⅱ。

社会科の金子教諭は、5年間にわたり記事の切り抜きを生徒、進路両指導部通信に掲載し、配布してきた。現代社会の授業でも記事の読み比べを実施。「生徒たちは新聞を読むことに抵抗感がなくなった」と述べた。

大村教諭は、2年の国

工夫して伝える力育成

●旭川

旭川市正和小・宮田華教諭、同市聖園中・伊藤文江教諭、剣淵町剣淵中・佐藤雅輝教諭、留萌市留萌中・星野尚志教諭、枝幸高・喜多理賀教諭の5人が実践内容を報告し、NIEアドバイザーの旭川市聖園中・菊池安吉教頭が実践での留意点として「周囲の理解と連携の必要性」などを挙げた。

宮田教諭は、5年の国語の単元「ニュースを伝え合おう」で、記事の内



容を5W1Hに組み立て、工夫して相手に伝える力を育てる授業に取り組んでいる。「読解力、表現力が明らかに身に付いている」と述べた。写真Ⅱ。

伊藤教諭は、国語の授業の冒頭、生徒に気になった記事の内容と意見を発表させ、聞き手は発表者の意見について感想を書き、意見交流につなげる実践を紹介。「徐々にだが、自分の言葉で意見を書けるようになってきている」と報告した。

佐藤教諭は、職業体験などの新聞制作や剣淵町に関する記事を使った公民科の授業など多彩な活用方法を発表。「記事は身近で、最新のテーマを

確であればアンテナが立つ。その上で新聞を読むと、教材として必要な記事は入ってくる」と強調した。

国語科の星野教諭は、新聞投稿の作文指導や、かべ新聞コンクール入賞常連校の新聞づくりについて報告。「文章力向上につながる、地域の問題を真剣に考えるきっかけになった」と説明した。

喜多教諭は、国語の授業で北海道新聞投稿欄へ投稿する作文指導に積極的には文章を書くことへの大きな動機付けになっている」と指摘した。

1月13日に冬季研修

NIE研究会
北海道NIE研究会と当協議会共催の本年度第2回NIE実践交流会「冬期研修会」は1月13日、北海道新聞社NIEプラザ(札幌市中央区大通西3-6)で開かれる。午後2時開会。北海道新聞NIE推進センターの本間康裕委員が「みらい君の広場から見た子どもの姿」と題してミニ講演をする。

大泉 昭人

帯広第四中教諭



年以上経った今でも忘れられない。新聞作りの楽しさはこの時生徒たちから教える

NIE実践奮闘記

生徒たちにもらった感動

てもらったのだ。それ以来、担任を持つたびに新聞作りを子ども達と

大な時間と労力を必要とするが、子ども達はより良いものを追求し、美しい見せる技術や、知らないことを人に聞く・調べる・まとめるなど様々な力を伸ばしていった。何よりも、お互い

に担任の3年4組の生徒6人と取り組んだ。帯広の良いとところを探して10箇所以上取材に行き、見聞きするだけではなく、試食をしたり、入浴をしたりと体験も多かった。

制作段階で何度も書き直し、ボツになった記事もいくつかあった。受験生であることと、文化祭の壁新聞制作と平行していたこともあって、苦しい状況だったが「みんな頑張る」ことを大切にに取り組んだ。

そして完成した「オベリベリ」が全国で最優秀賞に選ばれたときの喜びはひとしおであった。「真剣にやるほど得るものも多く、感動も大きい」ということを改めて子ども達と共有できた。素晴らしい生徒たちとの出会いと、共に学ぶ楽しさにいつも感動させられ、感謝している。

参加申し込みと問い合わせは、同研究会・豊島義明事務局長(札幌市羊丘中教頭)へ。☎011(851)9352、FAX011(851)0924。

初めて壁新聞制作をしたのは、初任校の釧路共栄中で2年生の担任を持った時だった。何から始めて良いかわからず、生徒たちに教えてもらいながら何とか完成させたことを今でも懐かしく思う。

頼りない担任だったが、子ども達は決して批判するのではなく、むしろ「一緒に良いものを作ろう」と頑張ってくれた。自主的に取材に行き、アドバイスを聞きながら制作した「つくし」は文化祭で最優秀賞に選ばれた。この作品の内容、制作の光景、結果の感動は10

「段階的取り組み必要」

NIE 研究大会実践発表

第13回北海道NIE研究大会の実践発表では、札幌市円山小・伊藤健太郎教諭、江別市立命館慶祥中・細川典敬教諭、由仁商業高・中川竜治教諭が、いずれもNIE実践校としての提供されている新聞を活用した成果と課題を発表、参加者たちから、具体的な指導法について質問などが相次いだ。

小学低学年への活用模索

現在6年を担任している朝のニュースなどで新聞の伊藤教諭は、「5年は」記事を読んで発表する。



6年は総合学習の授業で新聞を活用している。日常の積み重ねによって知識、理解が深まり、社会情勢に対する興味、関心が高まってきたという。紹介。課題として、新聞活用は高学年だけの取り組みになっており、低学年への広がりを実践報告

りを探している。と述べた。細川教諭は、①新聞への投稿(朝の一分間スピーチや朝読書の感想を原稿にして新聞へ投稿)②新聞製作(京都研修旅行のかべ新聞づくり、わがまち新聞コンクールへの出品)などに取り組み、文章力や伝える力の向上に役立っていることを報告した。

授業時間をどこで確保するか」と強調した。国語科の中川教諭は、3年を対象にした現代文表現分野の単元「作文新聞記事を読んで」の授業で、構想シートを使って自分の考えをまとめ、それを作文にして新聞に投稿する取り組みを発表した。

「新聞を読む生徒が目立つようになった。生徒には、自分なりの視点で読むことを意識させている。投書をはじめ3年目になるが、論理的に考える文章を書く力を付けさせるには、1年次から計画的、段階的に実施する必要がある」と説明した。

活用型学習に効果

NIE学会で実践例報告

書評書きに挑戦の事例も



日本NIE学会の第5回大会が11月15、16の両

日、福岡県宗像市の福岡教育大学で開かれ、学校や新聞関係者ら約70人が参加した。

シンポジウム、課題研究、自由研究があり、福岡県宗像市の福岡教育大学で開かれ、学校や新聞関係者ら約70人が参加した。シンポジウム、課題研究、自由研究があり、福岡県宗像市の福岡教育大学で開かれ、学校や新聞関係者ら約70人が参加した。

日本新聞教育文化財団は、2009年度のNIE実践校を1月から募集する。道内では当協議会が募集の窓口になっており、財団のほか、協議会が独自に新聞を提供する認定校を受け付けている。

来年度実践校 1月から募集

のみ無料配布する。年間提供期間は担当教員数によって2カ月または4カ月。26—8紙無料提供

このうち新規は小中高、小中併置、中高一貫校の合計17校。継続は小中高、中高一貫校、専修・専門学校の合計26校。08年度に新設された奨励校は5校(財団認定)で、実践経験校もしくは校内挙げてNIEに取り組んでいる学校(大学を含む)が対象。提供期間は1年だが、希望で延長できる。5月までに実践校を内定する。詳細は当協議会事務局へ。

「新聞を読む生徒が目立つようになった。生徒には、自分なりの視点で読むことを意識させている。投書をはじめ3年目になるが、論理的に考える文章を書く力を付けさせるには、1年次から計画的、段階的に実施する必要がある」と説明した。

自由研究は15校から発表があり、札幌市寒中學校三上久代教諭は「読解力向上を目指した国語の授業」について発表した。今回はNIE研究者として大学からの発表が約4割を占めていた。(コーディネーター・高辻清敏)

中高生「記者の目」体験

和紙人形展で制作者取材する標茶高校の生徒（就業体験・7月29日）



④釧路新聞社

釧路新聞社は、小中高校生の見学や就業体験を受け入れ、子どもたちが新聞や新聞社に親しんでもらう機会を増やしているほか、週1回教育のページを掲載、学校とのつながりを深めている。同社の取り組みについて寄稿してもらった。

教育のページにも力

最近、総合学習や職業体験で新聞社を訪れる小、中学生のグループや高校生が多くなった。今年だけで申し込みが13件。中学、高校生になると、実際に記者に同行して催し物の取材の仕方や効果的な写真の撮り方を手ほどきする。市役所や警察署市内の各施設の見学など「記者の目」となつて観察してもらうケースもある。

また、毎週月曜掲載の

「活字に親しんで」 学校に図書贈り 26 年

文化財団主催)では、昨年度釧路市の隣町、白糠町の庶路中3年生グループが道内コンクールで最優秀賞(釧路新聞社賞)を受賞し、その後の全国審査会で、日本一に輝くうれしいニュースもあった。今年6月本社で行われた「NIE釧路セミナー」で、指導に当たった教諭が、地域に根ざしたかべ新聞づくりから、ふるさ

4 地方紙の
取り組み

教育のページ「学校SC
HOO Lがっこう」の中
で釧路管内の小、中、高
校のタイムリーな話題を
取り上げている。紙面を
通して教育現場との接点
を持つ努力をしている。
釧路管内は「かべ新聞」
づくりに熱心な中学校が
多い。毎年11月上旬のN
IE週間に合わせて実施
される「わがまち新聞コ
ンクール」(日本新聞教育

編集後記

○…小紙は 2002 年 12 月の創刊からスタイルをあまり変えずにきたが、掲載記事を増やし、読みやすい紙面にするため、来年 2 月発行の 38 号から内容を刷新する。

○…このため 1 面コラム「色エンピツ」をやめる。創刊以来担当してきた高辻コーディネーターのご苦勞に感謝したい。小紙の配布は当初札幌市内とその周辺に限られていたが、N I E の広がりに伴い、今では全道に広がっている。

○…発行部数は千百部になった。N I E を実践する小中高校や専修・専門学校、それに道教委、各教育局、各市教育委員会にも届けている。反響、注文も多く、父母からの送付申し込みもある。

○…新紙面は見やすい 6 段になる。情報量を増やすだけでなく、今まで以上に現場先生方の N I E 活動を幅広く紹介し、学校、新聞社、行政の交流の場としたい。若い先生たちの投稿は太いに歓迎。(小)

お知らせ

とへの誇りと豊かな感性が磨かれ、取材する喜びも生まれている、と報告している。

本社では日ごろから活字に親しみ、正しい国語能力と人間性を育む読書指導に役立てて欲しい、と毎年釧路、根室両管内の10校に「創新教育図書」（財団法人・創新教育芸術振興基金）を贈っている。今年で26回目、延べ124校に贈られた。

これらの活動を継続して、児童、生徒たちが教育の場で新聞や新聞社に接する機会を多く作り、親しみを感じてくれればいいと思うている。

（釧路新聞社編集局長・伊藤豊）

2月7日室蘭
帯広では14日
当協議会主催の第5回
NIE室蘭・胆振セミ

更小・山田圭介教諭（帯広市）
 広第4中・大泉昭人教諭（帯広市）
 池田町高島中・駒澤嗣夫教諭（上士幌高・上村剛教諭、帯広市啓西小・森谷栄介教諭（NIEアドバイザー））

札幌市新陵東小教頭・上
村尚生教頭（前NIEア
ドバイザー）

兩セミナーの実践発表者は次の通り。後援と助言者は未定。参加申し込みと問い合わせは協議会事務局へ。

◇室蘭・胆振セミナー
▽実践報告者 室蘭市日新小・鵠富士子教諭、洞爺湖町虹田中・寺島一樹教諭、登別明日中等教育学校・吉川敏己教諭、室

ナーは2月7日(土)午後1時半から北海道新聞室蘭支社(室蘭市幸町5)で、第7回NIE帯広・十勝セミナーは同14日(土)同1時半から同帯広支社(帯広市西4条南9丁目)でそれぞれ開かれる。

久野金 議長は同10時から午後4時
半まで。問い合わせは札幌
幌啓成高・一井美香教諭
へ。 ☎ 011-898-
2311 FAX 011-8
9812313。

—(6)で開く。

新聞制作の指導経験が豊富な高校教師らが新聞

北海道高等学校文化連盟新聞専門部は、第5回新聞指導研究会を1月6日（火）北海道新聞社（札幌市中央区大通西3

1月6日に高校
新聞指導研究会

「ほっかいどうNIE通信」は、北海道新聞ホームページ「NIE」(www.doshin-nie.com/)で、バックナンバーからご覧になれます。